

テーマ： 安胎八法

内容： 1. 補腎安胎法

腎は精を司る、胎児は腎精により成長。腎は胞胎と繋がり、胞胎の位置を維持する作用もある。したがって補腎法は八法の中一番重要となります。

腎虚による妊娠中よく見られる病症： 墮胎、早産、胎漏、腰酸、悪阻など。

治則： 補腎系胞、固腎益精

常用方： 安胎飲など。

常用薬： 熟地黄、山芋、鹿角膠、杜仲、女貞子、
としし等。

2. 補脾養胎法

脾は後天の本、気血生化の源、胎胞を滋養する。

脾虚による妊娠中の病症： 墮胎、流産、胎児成長不良、子満、子腫等。

治則： 補益脾気

常用方： 四君子湯、六君子湯等

常用薬： 党参、焦白朮、茯苓、山薬、炒白扁豆、

黄芪等。

3. 清熱安胎法

妊娠中血が胎胞に集まり、全身の気血が不足になり、火熱が生じる、したがって火熱による胎動不安。常見病症：胎動腹痛、胎漏、胎動出血、流産、妊娠口干等。

治則：清熱安胎

常用方劑：知柏地黄丸、知柏四物湯等

常用薬：生地黄、知母、黄芩、天冬、当帰、元参等。

4. 補気血法

血虚で胎児が養われず。養血法は安胎八法の中とても重要である。妊娠血虚による病症：妊娠腹痛、胎漏、胎動不安、流産、妊娠悪阻、胎児発育不良等。

治則：補気養血

常用方薬：当帰、熟地黄、生地黄、竜眼肉、黄精、クコ子等。

5. 疎肝養胎法

妊娠中気血が胎胞に集まり、全身血虚と火熱が過剰になり、また気分変化とともに肝気うつ結になりやすい。妊娠中肝うつ結による病症：悪阻、先兆流産、子癇等。

治則：疎肝理気。

常用方剤：紫蘇和気飲、一貫煎、二至丸、三甲復脈湯等。

常用薬：当帰、炒白芍、天麻、香附子、亀板、菊花、天冬等。

6. 和胃順胎法

胃は水穀を腐熟する。胎児は胃氣を得て発育する。しかし妊娠中虚火旺盛が多く、したがって上炎した火熱が胃氣を上逆させ不調になる。よくある病症：妊娠悪阻、胎動不安、妊娠水腫等。

常用方剤：橘皮竹茹湯、香砂六君子湯、紫蘇和気飲等。

常用薬：陳皮、砂仁、枳殻、紫蘇、香附子、焦白朮、生姜等。

7. 滋陰潤胎法

妊娠初期陰血が胎児を養い、不足になりがちです。陰血不足

と陽気旺盛で、血熱内生になる。真陰不足による病症：胎萎不長、胎動不安、墮胎、流産、妊娠眩暈等。

常用方剤：知柏地黄丸、大補陰丸、六味地黄丸、河車大造丸等。

常用薬：生地黄、元参、亀板膠、麦門冬、女貞子、クコ子等。

8.止血安胎法

妊娠、墮胎、流産、胎漏の中、腹痛や出血があった場合は急症また先兆流産と呼ばれて、安胎止血が一番重要となる。

常用処方：安胎飲、膠艾四物湯、固胎湯、安胎止血湯。

常用薬：当帰、炒白芍、生地炭、阿膠、川断、黒杜ちゅう、焦白朮、生黄耆、山萸肉、黄ごんなど。

結論：妊娠病の別名は胎前病と呼ばれ、治病と安胎同時に行うのは原則です。また妊娠中の投薬は慎むべき、胎児の成長を阻害する薬の使用は禁ずる。